

令和7年度（2025年度）第3回東海市幼児教育研究協議会会議録

- 1 会議名 令和7年度（2025年度）第3回東海市幼児教育研究協議会
- 2 開催日時 令和8年（2026年）2月17日（火）
15:00～16:30
- 3 開催場所 東海市役所 501会議室（5階）
- 4 議題
 - (1) 令和7年度（2025年度）事業報告について
 - (2) 令和8年度（2026年度）事業計画（案）について
 - (3) 架け橋プログラムについて
 - (4) その他
- 5 出席者氏名

幼児教育研究協議委員 13名

学校教育課	指導主事（会長）	加藤 雅尚
明倫保育園	園長（副会長）	田中 薫
主任児童委員		早川あかね
元東海市立保育園長		坂 操子
明佳幼稚園	園長	長田 富枝
明佳幼稚園	主任教諭	近藤 彩帆
名和小学校	校長	鏡味志寿夫
三ツ池小学校	教務主任	牧野 彰人
横須賀小学校	校務主任	伊藤 嘉朗
加木屋南保育園	園長	平野 里美
一番畑保育園	主任保育士	柳澤 純子
名和東保育園	主任保育士	東海林純子

木庭保育園	主任保育士	赤玉 裕子
-------	-------	-------

事務局

幼児保育課	課長	小島 英泰
-------	----	-------

幼児保育課	指導保育士	川口 満子
-------	-------	-------

幼児保育課	主任保育士	久野えり子
-------	-------	-------

幼児保育課	幼児教育専門員	草場利津子
-------	---------	-------

6 欠席者 なし

7 公開・非公開の別 公開

8 傍聴者の数 なし

9 発言の内容

(1) 挨拶

幼児教育研究協議会 会長 加藤雅尚

現在ミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックで、選手が多くの感動を与えている。チーム・ジャパンのコンセプトは“ともに、一步踏み出す勇気を”となっている。前は“ともに”が、なかった。挑戦の場が違っていても、「一人じゃないと信じていることが大きな力になる」という、人と人とのつながりに根ざした強い思いが込められている。限界に臨む選手だけでなく、支える人、応援する人の連鎖が大きなエネルギーとなり、選手につながる。

ともに、仲間と歩むことが成長の原動力である。友達とかかわり、目標を達成する。この後の報告にもあるが、3園が“深い学びにつながる保育を考える”という公開保育のテーマでの実践をおこなった。どの園も他児とのかかわりを大切にした実践となっている。幼児期に、“一人じゃない”と信じて取り組む。その経験は、小学校で、仲間と共に成長する原動力となる。子どもを支える保育士の在り方も記載されている。紀要が届いたら、職場で紹介して欲しい。

(2) 令和7年度（2025年度）事業報告

① 幼稚園・保育園と小学校との交流について

日時、内容及び感想 (資料参照)

その他 2月20日名和東保育園が名和小学校を訪問。

2月25日名和保育園が名和小学校を訪問

2月26日明倫保育園・みどり保育園が明倫小学校を訪問

② 研究紀要44号について

現在、講師に総評を依頼中。

完成したら、委員の皆様にも配布する。

各園のテーマ (資料参照)

③ 保育参観について

・保育参観は、養父保育園・大堀保育園・東山保育園・平洲保育園の4園で実施した。

・資料には、養父保育園の保育参観での子どもの姿と協議内容の記録の一部を記載した。

・焼きそばの看板を作るグループの姿を、子どもの育まれている資質・能力で整理すると、

「細い筆では、なかなか塗りつぶせないことに気づき、刷毛に変える」という姿は「知識及び技能の基礎」

「文字をめだたせるために、“文字の色を変える”“文字を太くする”といった案をだす」という姿は「思考力・判断力・表現力の基礎」

「文字の色を決める時に、交互に色を使うことで折り合いをつける」という姿は「学びに向かう力・人間性」

このように、他の姿についても、整理をして、子どもの育ちを確認した。

・目的・今後小学校でできること・参加者の意見・感想 (資料参照)

(2) 令和8年度(2026年度)事業計画(案)について

資料に基づき事業計画(案)について承認を得る。

(3) 架け橋プログラムについて

幼児教育研究協議会の事業で、幼稚園・保育園・小学校の交流が行われ、様々な経験ができているため、この会の事業を継続することで、架け橋プログラムに対応できるとの考えでよいか。

→異議なし

(4) その他

《一年を終えて 感想および意見》

- ・幼稚園、保育園、小学校の連携について、交流を通してお互いを理解し、子ども理解につなげていくことが大切と思う。
- ・形式的な取り組みではなく、子どものためにどうするとよいかを考え実践していくことが大切と思う。小学校の先生が幼児教育を知ろうとしてくれていると感じた。
- ・保育者が、どのように環境を整えて、声をかけるかが大切と実感した。
- ・幼稚園は夏休みがあるが、こども園は夏休みがない。小学校の先生に体験に来てもらい、意見が聞きたい。
- ・初めて小学校に勤務し、幼稚園・保育園・小学校の連携が大切だと思った。教師がもっと、保育園・幼稚園に出向き、学んでくることが大切で、交流が広まっていくとよい。
- ・小学校も幼稚園、保育園もそれぞれ方針や特徴があり、悩みもある。単独を縦・横につなげることが、幼児教育研究協議会の役割と思う。いろいろな人が参加して広めていけるとよい。
- ・幼稚園・保育園・小学校の関係が近くなったと感じる。子どもの興味関心を引き出すかわりも、充実してきた。
- ・公開保育を夏季休業中に行うことで、小学校の先生の参加が増えたと感じる。より多くの人に参加してもらえることが課題。委員のみなさんには、架け橋となって欲しいと思う。

以上

議事録作成者 幼児保育課 草場利津子

議事録確認委員 会長 加藤 雅尚